

日曹 フロンサイド[®] sc

(FROWNCIDE SC)

登録番号 第18751号
 種類名 フルアジナム水和剤
 fluazinam
 性状 淡黄色水和性粘稠懸濁液体
 有効年限 3年

有効成分 フルアジナム 39.5%
 PRTR フルアジナム(PRTR・1種) 39.5%
 毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 包装 500ml×20本

■特長

1. 抗菌スペクトルの極めて広い殺菌剤です。
2. 植物病原菌の各感染過程を、低濃度で強力に阻害します。
3. 低濃度で高い予防効果があります。
4. 薬剤耐性菌にも優れた効果があります。
5. ハダニの密度抑制効果があります。

■適用病害虫名及び使用方法

(2018年10月10日現在)

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈倍数(倍) | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | フルアジナムを含む農薬の総使用回数 | 使用方法 |
|-------------|--------------------------------------|-----------------|------------------|--------------------------|---------|---------------------------------------|--------------|
| かんきつ | そうか病 灰色かび病 | 2,000～ 2,500 | 200～700 ℓ/10a | 収穫30日前まで | 1回 | 1回 | 散布 |
| | 黒点病 ミカンサビダニ ミカンハダニ チャノホコリダニ | 2,000 | | | | | |
| りんご | 斑点落葉病 褐斑病 黒星病 すす点病 すす斑病 | 2,000～ 2,500 | 50～100 ℓ/樹 | 収穫45日前まで | 1回 | 2回以内 [散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内] | 散布 |
| | モニリア病 輪紋病 | 2,000 | | | | | |
| | | 500 | | | | | |
| りんご (苗木) | 白紋羽病 紫紋羽病 | 500 | — | 植付時 | 1回 | 2回以内 [苗木浸漬は1回 以内、土壌灌注 は1回以内] | 20分間 苗木浸漬 |
| | | | 25～50 ℓ/樹 | 植付後 ただし、収穫 開始1年前まで | 1回 | | 土壌灌注 |
| なし | 黒星病 黒斑病 | 2,000～ 2,500 | 200～700 ℓ/10a | 収穫30日前まで | 1回 | 2回以内 [散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内] | 散布 |
| | 輪紋病 | 2,000 | | | | | |
| | | 500 | | | | | |
| | | 1,000 | 100～200 ℓ/樹 | | 1回 | | |
| ブルーベリー | 白紋羽病 | 500 | 50～100 ℓ/樹 | 収穫21日前まで | 1回 | 1回 | 土壌灌注 |
| ネクタリン | | 1,000 | 100～200 ℓ/樹 | 収穫30日前まで | 1回 | 1回 | |

殺菌剤 日曹フロンサイドSC

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈倍数(倍) | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | フルアジナムを含む農薬の総使用回数 | 使用方法 |
|------------------|------------------------------------|-----------------|------------------|------------------------------------|----------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 小粒核果類 (うめを除く) | 白紋羽病 | 500 | 50～100 ℓ/樹 | 収穫後から 開花前まで ただし、 収穫60日前まで | 1回 | 1回 | 土壌灌注 |
| うめ | 黒星病 灰色かび病 | 2,000 | 200～700 ℓ/10a | 発芽期まで ただし、 収穫60日前まで | 1回 | 2回以内 散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内 | 散布 |
| もも | 灰星病 ホモプシス腐敗病 | 500 | 50～100 ℓ/樹 | 収穫7日前まで | 1回 | | 土壌灌注 |
| | 白紋羽病 | | | 1,000 | 100～200 ℓ/樹 | | 収穫30日前まで |
| ぶどう | 晩腐病 黒とう病 べと病 灰色かび病 枝膨病 | 2,000 | 200～700 ℓ/10a | 開花直前～ 落弁期 ただし、 収穫60日前まで | 1回 | | 2回以内 散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内 |
| | 白紋羽病 | 500 | 50～100 ℓ/樹 | 収穫21日前まで | 1回 | 土壌灌注 | |
| びわ | 灰斑病 | 2,000 | 200～700 ℓ/10a | | | 収穫7日前まで | 1回 |
| | 白紋羽病 | 500 | 50～100 ℓ/樹 | 収穫後から 開花前まで | 1回 | 土壌灌注 | |
| | | 1,000 | 100～200 ℓ/樹 | | | 土壌灌注 | |
| キウイフルーツ | 灰色かび病 果実軟腐病 | 2,000 | 200～700 ℓ/10a | 収穫7日前まで | 1回 | 散布 | |
| | 白紋羽病 | 500 | 100ℓ/樹 | 収穫30日前まで | 1回 | 土壌灌注 | |
| キウイフルーツ (苗木) | — | | — | 植付時 | 1回 | 1時間 苗木浸漬 | |
| かき | 黒星落葉病 落葉病、炭疽病 灰色かび病 | 2,000 | 200～700 ℓ/10a | 収穫45日前まで | 1回 | 1回 | 散布 |
| おうとう いちじく | 白紋羽病 | 500 | 50～100 ℓ/樹 | 収穫30日前まで | 1回 | 土壌灌注 | |
| いちご | 炭疽病 | 1,000 | 50ml/株 | 育苗期 | 1回 | 灌注 | |
| あずき | 菌核病 | | 100～300 ℓ/10a | — | 収穫21日前まで | 3回以内 | 3回以内 |
| いんげんまめ | 炭疽病 灰色かび病 | 1,000～ 2,000 | | | 収穫7日前まで | | |
| | いんげんまめ | 菌核病 | 1,000 | — | — | — | |
| アスパラガス (露地栽培) | 茎枯病 斑点病 | 2,000 | 100～300 ℓ/10a | 収穫終了後 ただし、 秋期まで | 5回以内 | 5回以内 | 散布 |
| たまねぎ | 白色疫病 | 1,000 | 25ℓ/10a | 収穫3日前まで | 5回以内 | 6回以内 苗根部浸漬は 1回以内、散布 は5回以内 | |
| | 灰色腐敗病 べと病 灰色かび病 | 1,000～ 2,000 | | | | | |
| | 灰色かび病 | 500 | | | | | |
| | — | — | | | | | |

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈倍数(倍) | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | フルアジナムを含む農薬の総使用回数 | 使用方法 |
|-------|---|-------------|-------------------|----------|---------|---|------------|
| ばれいしょ | 疫病 | 500 | 25ℓ/10a | 収穫7日前まで | 4回以内 | 6回以内 〔種いも浸漬は1回以内、植付前の土壌混和および植付時の植溝散布は合計1回以内、植付後の散布は4回以内〕 | 散布 |
| | | 1,000～2,000 | 100～300ℓ/10a | | | | |
| | 菌核病 | 1,000 | - | 植付前 | 1回 | | 種いも瞬間浸漬 |
| | 夏疫病 | 2,000 | | | | | |
| そうか病 | 100 | | | | | | |
| やまのいも | 葉渋病 | 2,000 | 100～300ℓ/10a | 収穫7日前まで | 4回以内 | 5回以内 〔植付前の土壌混和は1回以内、植付後の散布は4回以内〕 | 散布 |
| てんさい | 根腐病 | 1,000～2,000 | 3ℓ/m ² | 収穫30日前まで | 1回 | 5回以内 〔は種前の土壌混和および苗床灌注は合計1回以内、株元散布は4回以内〕 | 株元散布 |
| | 黒根病 | 100 | | 移植前 | | | 苗床 土壌灌注 |
| 小麦 | 紅色雪腐病 雪腐大粒菌核病 | 1,000 | 60～150ℓ/10a | 根雪前 | 2回以内 | 3回以内 〔は種前は1回以内、は種後は2回以内〕 | |
| | 雪腐小粒菌核病 | 1,000～2,000 | 25ℓ/10a | | | | |
| | | 250 | | | | | |
| 茶 | 炭疽病、輪斑病 新梢枯死症 (輪斑病菌による) もち病、網もち病 灰色かび病 褐色円星病 チャノホコリダニ | 2,000 | 200～400ℓ/10a | 摘採14日前まで | 1回 | 1回 | 散布 |
| うるし | 白紋羽病 | 500 | 20～50ℓ/樹 | 発病前 | 1回 | 3回以内 | 土壌灌注 |
| ゆり | 茎腐症 (リゾープス菌による) | | 3ℓ/m ² | 定植後 | 2回以内 | | |

| 作物名 | 適用病害虫名 | 使用量 | | 使用時期 | 本剤の使用回数 | フルアジナムを含む農薬の総使用回数 | 使用方法 |
|-------|------------|------------|--------------|------|---------|-------------------------------------|--------------|
| | | 薬量(mℓ/10a) | 希釈水量(ℓ/10a) | | | | |
| やまのいも | 褐色腐敗病 | 500 | 100～200 | 植付前 | 1回 | 5回以内 〔植付前の土壌混和は1回以内、植付後の散布は4回以内〕 | 全面散布 土壌混和 |
| はくさい | 尻腐病 軟腐病 | | | 定植前 | 1回 | 2回以内 〔土壌混和は1回以内、土壌散布は1回以内〕 | 全面土壌 散布 |
| | 根こぶ病 | 1回 | 全面散布 土壌混和 | | | | |

| 作物名 | 適用病害虫名 | 使用量 | | 使用時期 | 本剤の使用回数 | フルアジナムを含む農薬の総使用回数 | 使用方法 | |
|------------------------|----------------------------------|-------------|--------------|------------------|---|--|---|--------------|
| | | 薬量 (ml/10a) | 希釈水量 (ℓ/10a) | | | | | |
| キャベツ | 苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病 根こぶ病 | 500 | 100～200 | は種 または 定植前 | 2回以内 (苗床では 1回以内、 本圃では 1回以内) | 3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和 は1回以内、土壌 散布は1回以内) | 全面散布 土壌混和 | |
| | 菌核病 | | | 1回 | 全面土壌 散布 | | | |
| ブロッコリー カリフラワー かぶ | 根こぶ病 | | | は種前 | 1回 | 1回 | 全面散布 土壌混和 | |
| だいこん | 亀裂褐変症 (リゾクトニア菌) | | | 定植前 | 1回 | 1回 | | 全面土壌 散布 |
| レタス 非結球レタス | ビッグベイン病 すそ枯病 | | | 400～600 | 植付前 | 1回 | 2回以内 土壌混和は 1回以内、 土壌散布は 1回以内 | 全面散布 土壌混和 |
| | 軟腐病 すそ枯病 | | | | | | | |
| ばれいしょ | 粉状そうか病 | | | 500 | 植付前 | 1回 | 7回以内 | 全面散布 土壌混和 |
| | 粉状そうか病 そうか病 | 200 | 植付前 | 1回 | 3回以内 (は種前は1回以内、 は種後は2回以内) | | | |
| チューリップ | 微斑モザイク病 条斑病 | 600 | 100 | は種前 | 1回 | 全面散布 土壌混和 | | |
| 小麦 | 縞萎縮病 | | | | | | | |

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用直前に容器をよく振ってください。
2. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
3. 保護効果主体の薬剤であり、病原菌に感染した後の散布では効果が不十分な場合があるので散布時期に注意してください。
4. かんきつに使用する場合は次の事項に注意してください。
 - (1) レモンには薬害を生じるので使用をさけてください。
 - (2) 病害とミカンハダニの同時防除に使用する場合、かけ残しのないようについていねいに散布してください。
5. なしに使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - (1) 幸水などの赤なしの幼木や樹勢の劣る樹では、新葉に薬害が発生するおそれがあるので注意してください。
6. ぶどうに使用する場合、葉や果実に薬害が発生するおそれがあるので、使用時期を厳守してください。なお、ネオマスカットは特に薬害を生じやすいので使用をさけてください。
7. いちごに使用する場合、新葉に薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
8. 本剤と他剤との混用は、薬害を生じやすいので注意してください。特に、なし、ぶどう、もも及びうめでは十分注意してください。なお、うめについては発芽期までの使用に留めてください。
9. きゅうり、レタス等には薬害を生じるおそれがあるので、周辺にそれらの作物がある場合にはかからないように注意して散布してください。

10. 白紋羽病、紫紋羽病対象に本剤を土壤灌注する場合
 - ・樹幹から半径1 m 程度の範囲を掘り上げて根部を露出させ、病根を除去した後所定濃度の薬液を灌注し埋め戻すか、半径1 m 程度の範囲に土壤灌注機を用いて所定量の薬液を灌注してください。ただし土壤灌注機による灌注は予防的使用か軽症樹に限って行ってください。
 - ・苗木に使用する場合、植付時に所定量の薬液を灌注しながら掘り上げた土を埋め戻すか、植付後に土壤灌注機を用いて所定量を注入してください。
 - ・樹の大きさにより灌注水量を調節してください。また、灌注水量を厳守し、灌注水量が100ℓ以上必要な場合は1,000倍で使用してください。
 - ・10アール当たりの処理本数が多い場合には、150本を超えないように適用の範囲内で使用してください。
11. 全面散布土壤混和で使用する場合、所定量の薬量を均一に散布し、土壤と十分混和してください。降雨直後の処理は、混和むらの原因となるのでさけてください。
12. 根こぶ病対象に本剤を多量に使用すると初期生育が抑制される場合があるので、適用薬量の範囲で使用してください。
13. 全面土壤散布で使用する場合は、畦立て作業後に所定量の薬量を均一に散布してください。
14. キャベツ、はくさい、レタス及び非結球レタスの全面土壤散布では、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後回復し、作物の生育、収量に影響はありません。
(定植後の多雨または、過度の灌水条件で発生しやすいです。)
15. だいこんに使用する場合は、初期生育の遅延を生じることがありますが、その後の生育には影響しません。
16. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
17. 小麦、ばれいしょ、たまねぎに対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
18. 使用に当たっては使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
19. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意

20. 皮ふ感作性を有するため、皮ふかぶれなどを生じることがあるので、以下の点に注意してください。
 - (1) かぶれやすい体質の人及び本剤または他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物などとの接触はさけてください。
 - (2) 薬液調製時及び使用の際は、帽子、保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
 - (3) 降雨時、または樹木が濡れている場合には作業を行わないでください。
 - (4) 剪定、施肥、摘果、除草、袋かけなどの管理作業をすませてから使用してください。
 - (5) 使用後の入園はできる限り期間をおいてください。特に摘果、袋かけのような作業を行う果樹では少なくとも7～10日間の期間をあけてください。
 - (6) 使用後の入園の際も、帽子、保護メガネ、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
 - (7) 使用した後及び摘果などのため使用後入園し作業した後は、直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - (8) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
 - (9) 施設内では使用しないでください。
 - (10) 高温、多湿時に長時間の使用及び作業はさけてください。
 - (11) 苗床で使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないよう注意してください。
21. 眼及び皮ふに対して刺激性があるので薬剤が眼に入ったり、皮ふに付着しないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
皮ふに付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼および海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な場所に保管してください。

- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空ビンは圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

※いちご分野での安全使用について

いちご分野での使用に際し、下記の使用上の注意事項に関し、厳守してください。

- ◎本剤は、皮ふ感作性を有するため、皮ふかぶれ等を生ずることがありますので、いちごの使用においては、以下の点に特にご注意ください。
 - ①かぶれやすい体質の人及び本剤または他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触はさけてください。
 - ②**施設内では使用しないでください（育苗ハウスは施設に該当します）。**
 - ③薬剤調製、処理、処理後の作業時において、メガネ、マスク、不浸透性手袋、防除衣に係る注意事項を遵守してください。
 - ④処理後から再入園までの期間は、できるだけあけてください。
(7～10日間を目安に現地作業事情を考慮し、できるだけ期間をあけてください。)
 - ⑤育苗管理作業を済ませてから、本剤を使用してください。
 - ⑥高温、多湿時の長時間の散布（灌注）作業および管理作業はさけてください。
 - ⑦処理後の採苗・定植作業時は、必ず手袋を着用して作業をおこない、直接苗（土壌も含む）に触れないように注意してください。
 - ⑧処理および作業時は風通しが良い、常に換気できる環境下となるよう努めてください。